

岡山大学教育学部附属中学校 第35回 中学校教育研究発表会のご案内

深い学びを引き出し、これからの時代に求められる
資質・能力を育むカリキュラム・デザイン 第2次
～授業の質の向上に資するカリキュラム・マネジメントの確立を目指して

秋涼の候、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、岡山大学教育学部附属中学校では、標記の教育研究発表会を下記のとおり開催いたします。

本校では、平成28年度から、新学習指導要領（平成29年3月公示）において育成を目指す資質・能力を育むためのカリキュラムのデザイン、及びマネジメントに焦点を当て、実践研究に取り組んでいます。

これからの時代に求められる資質・能力を育成するためには、各教科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方を明確化してカリキュラムを設定し、それに基づいて授業構成を工夫し深い学びを引き出すことが重要であると考えています。また、各教科のカリキュラム・デザインを、教科横断的な視点をもって行うことが重要であると考えています。昨年度からの第2次の研究では、第1次の研究で追究した各教科におけるカリキュラムと実践を基に、教育課程におけるカリキュラム・マネジメントの確立に向けた実践研究に取り組んでいます。

各教科が進めてきた研究の成果を「公開授業」及び「研究協議会」を通して発表いたします。

多くの先生方にご参会いただき、それぞれのお立場や視点から忌憚無いご意見を賜りますようご案内申し上げます。

令和元年9月吉日

岡山大学教育学部長 三村 由香里
岡山大学教育学部附属中学校長 川田 力

開催要項

1 **研究主題** 深い学びを引き出し、これからの時代に求められる
資質・能力を育むカリキュラム・デザイン 第2次
～授業の質の向上に資するカリキュラム・マネジメントの確立を目指して～

2 **期 日** 令和元年11月16日(土) 9:30-16:20

3 **会 場** 岡山大学教育学部附属中学校 岡山市東山二丁目13番80号
TEL (086) 272-0202 FAX (086) 272-7941
URL <https://www.okayama-u.ac.jp/user/okafuchu/kenkyu.html>

4 **主 催** 岡山大学教育学部 岡山大学教育学部附属中学校

5 **後 援** 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会（申請中）

6 **日 程**

9:30	10:00	10:50	11:10	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15	16:20
受付	公開授業①	移動	公開授業②	昼食	研究協議	移動	講演会		閉会

7 **申し込み** ① 方 法 同封の申込書をFAXで、または、メールで下記にお申し込みください。

② 期 限 11月8日(金)まで（当日の参加も受け付けています。）

③ 参加費 無料

【参加申し込み先】

岡山大学教育学部附属中学校 研究発表会係

電話 (086) 272-0202 FAX (086) 272-7941

E-mail:nakakura-t@cc.okayama-u.ac.jp (研究主任 中倉 智美)

8 教科別研究協議会（13：00－14：30）

教科	研究の概要	指導助言者	協議会場
国語	<p>他者との協働を通じて自らの考えを広げ深める生徒の育成 —国語科における批判的思考を促すカリキュラム・デザイン—</p> <p>前回研究では「自らの考えを広げ深める生徒の育成」のために「『学習課題』と『対話的な学習活動』の観点から」のアプローチを試みた。本研究では、前回研究を基盤として「批判的思考力」の育成に焦点を当てる。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 田中 智生</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 室川 基</p>	多目的教室2
社会	<p>他者と協働し、主体的に社会の問題解決に取り組む生徒の育成 —他者の考えを取り入れながら、自己内対話を紡ぐ社会科のカリキュラム・デザイン—</p> <p>本研究で目指す生徒像は、「他者との協働的な学習を通して課題を解決したり、妥協案を見出したりしながら、主体的に社会の問題を解決していこうとする生徒」である。そのために、学習課題の設定と学習過程の振り返りに重点をおいた研究とした。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 桑原 敏典 准教授 山田 秀和</p> <p>岡山県教育庁義務教育課 指導主事 仁後 知佳</p>	1E教室
数学	<p>事象を数理的に捉え、問題を発見・解決する過程を遂行する生徒の育成 —統一的・発展的に考察する力を高めるカリキュラム・デザイン—</p> <p>解決した問題の結果や過程を振り返り、新たな問題につなげることができる生徒を育成するため、「統一的・発展的に考察する力」に注目して研究を進めている。本研究では単元構成と評価の在り方を提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 岡崎 正和</p> <p>岡山市教育委員会事務局学校教育部指導課教育支援室 指導副主査 岡田 正和</p>	2A教室
理科	<p>自然の事物・現象を主体的・対話的に探究する生徒の育成 —学びに向かう力を育む振り返りの工夫—</p> <p>理科では1次研究として分野・領域を横断して知識・技能を活用する授業を単元末に位置付ける単元構成について追究した。2次研究では、生徒が自ら学びを広げたり深めたりすることを目指した「振り返り」について提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 藤井 浩樹 講師 川崎 弘作</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 伊藤 昌訓</p>	第3理科教室
音楽	<p>鑑賞力と表現力の往還により、音楽を創造的に表現できる生徒の育成 —創作を効果的に位置付けたカリキュラムの提案—</p> <p>音楽科では、「真の創造的な活動につながる表現活動や鑑賞活動」について研究を進めている。2次研究では、表現領域（創作分野）に着目し、効果的な創作の授業、創作を効果的に位置付けたカリキュラムについて提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 小川 容子 教授 齊藤 武</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 大辻 慎一郎</p>	音楽教室
美術	<p>生活や社会の中にある美術に気づき、感じ方や考え方を深め合う生徒の育成 —身近な生活や社会の様々な課題に造形的な視点で向き合える単元構成の在り方—</p> <p>美術科では、1次研究として「日本の伝統・文化を尊重する態度を育てる鑑賞活動」を中心に、カリキュラム・デザインを行った。2次研究では、「生活や社会との関わり」に焦点をあて、単元構成や指導法を追求する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 清田 哲男</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 平田 朝一</p>	第1美術教室
保健体育	<p>運動の楽しさを実感し、運動を豊かに実践していく生徒の育成 —運動の効果的特性に着目した保健体育科のカリキュラム・デザイン—</p> <p>「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の一つとしてレジリエンスに焦点をあて、運動の楽しさを実感させつつ、レジリエンスを高めるためのカリキュラム・デザインについて研究している。2次研究では、球技を対象種目にして調査する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 足立 稔 講師 原 祐一</p> <p>岡山県教育庁保健体育科 総括主幹 片岡 敏行</p>	図書室
技術・家庭 (技術分野)	<p>技術の見方・考え方を働かせ、見通しを持って問題解決に取り組む生徒の育成 —問題発見をする力を育てる単元構成の工夫—</p> <p>技術の見方・考え方を働かせ、見通しを持って問題解決に取り組む生徒の育成を目指し、1次研究では考える力の向上を目指しカリキュラムのデザインを行った。2次研究では問題発見をする力に焦点をあてる。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 入江 隆 特任教授 平田 晴路</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 難波 玄</p>	第3技術教室
技術・家庭 (家庭分野)	<p>自分と環境との関係性の探求を通して、社会・世界と関わりながら、 未来を見据えた意思決定を行うことができる生徒の育成 —ESDを視点とした食生活学習の開発—</p> <p>授業において、科学的根拠に基づいた知識・技能を定着させ、討論を鍵とした探究活動を通して、パフォーマンス課題を解決する中で、SDGsを意識したESDの視点で意志決定できる生徒の育成を目指して、食生活領域のカリキュラムを提案する。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 佐藤 園 特任教授 河田 哲典</p> <p>岡山県総合教育センター 指導主事 岩佐 奈津子</p>	被服教室
英語	<p>場面や状況に応じた言語表現を選択・抽出して適切に活用できる生徒の育成 —領域統合型の言語活動を中心とした単元・授業構成の改善—</p> <p>英語科では、授業の中に領域統合型の活動を取り入れることで、生徒が母語で要求される言語処理に可能な限り近づけた活動を行う。また、場面・状況に応じて、伝えるための言語表現を取捨・選択する機会を多く作ることで主題の達成をねらう。</p>	<p>岡山大学大学院教育学研究科 教授 高塚 成信 准教授 小山 尚史</p> <p>岡山市教育委員会事務局学校教育部指導課教育支援室 指導副主査 仲宗根篤史</p>	多目的教室3

9 公開授業① (10:00~10:50)

	授業者 学年・組	単元 題材	授業説明	場所
国語	後藤 1年D組	単元五 それでいいの？ 「飛行機のブレーキ」	説明文「飛行機のブレーキ」を用い、文章の構成についての『批判読み』をする。重層構造図の作成を通して、文章の構成における形式段落の抽象度に関わる齟齬を指摘する。	1D 教室
社会	渡邊 2年B組	欧米諸国における「近代化」 「世界進出をめざす欧米諸国」	南北戦争を手がかりとして、産業革命後の欧米諸国が世界へ進出した理由と、進出した結果アジア諸国（インド）や日本がどのような影響を受けたかを考察する。	2B 教室
数学	猪木 3年D組	6章 円の性質 方べきの定理	2つの直線が円内で交わるときの図を考察することで、成り立つ性質を見いだす。さらに、条件変えをしたときにも同じ見方ができるかどうか証明を振り返り考察することで、統合して考える。	3D 教室
理科	坪田 2年C組	化学変化と原子・分子 「水の電気分解」	水の電気分解を、分解と化合をつなぐ授業として位置付け、エネルギーの視点から燃料電池と関連付けて考える。また、ふり返りを共有し、他者の意見から新たな概念の獲得を目指す。	第2理科 教室
保健 体育	岩谷 3年C組	球技「ゴール型」 バスケットボール	「チームでボールを運び、フリーを作って、ボールをゴールに入れること」を共通課題とし、作戦を立てたり、話し合ったりして仲間との関りを深め、パス&ランを使ったゲームや練習を行う。	体育館
技術	西崎 3年E組	材料と加工 情報 ストロー橋	ストローを材料に、技術の視点から荷重に耐えられる橋を製作する。また対話的な学びを中心とした学習を行い、協働から1つのよりよいものを製作するための問題や課題を考察する。	第1技術 教室
家庭	川上 2年A組	献立作りと食品の選択 「生鮮食品の特徴とその利用」	パフォーマンス課題「サルベージパーティをしよう」の提示を受け、本時は生鮮食品について、持続可能な社会の構築の視点からの意思決定を通し、よりよい食生活を考える。	被服教室

公開授業② (11:10~12:00)

	授業者 学年・組	単元 題材	授業説明	場所
国語	剣持 3年C組	単元五 時をめぐる～芭蕉の風雅～ 「おくのほそ道」他	「おくのほそ道」を中心に、「笈の小文」「猿蓑」など他作品もふまえて、これまでに創り上げてきた『十五歳の芭蕉論』を念頭に、著名人の芭蕉論を比較・分析する。	3C 教室
社会	米林 1年E組	アフリカ州 「アフリカの課題と展望」	「内戦」や「貧困」といった古いアフリカの姿から、「大きさ」と「多様性」を兼ね備えた魅力ある新しいアフリカの姿への転換に、日本はどう向き合うかを考える。	1E 教室
数学	川本 2年A組	5章 図形の性質と証明 証明に対応する図形	2つの正三角形をもとに、証明した内容を含め、条件変えをおこない発展させることで、いろいろな図形にもその証明が対応できるかを考察し、統合して考える。	2A 教室
理科	小池 3年B組	化学変化とイオン 「塩酸の電気分解」	電極周辺で起こる水溶液の性質の変化に問題を見だし、原因をイオンのモデルを用いて考え、班や学級での交流を図りながら追究する。また、授業の振り返りを通して、新たな探究へ繋げる。	第3理科 教室
音楽	三村 2年C組	温故知新 ～変える 変わる つながる～	「変える」と「変わる」に着目して、鑑賞や創作を行う。本時では、鑑賞で得た作曲家の技を生かしながら、鍵盤ハーモニカを用いて旋律をつくる。	音楽教室
美術	武田 3年E組	3号館をとびこえて ～思いとカタチとつながり～	普段、生活している中学校の「外」に目を向け、作品づくりをする。中学生とは異なる年齢の人たちをイメージして、発想や構想を行う。	第1美術 教室
技術	安井 2年D組	情報に関する技術 プログラミングによる計測・制御	生活や社会の中にある問題を発見し、オーロラクロック2Nを用いて、それぞれが見つけた課題を解決できるようなシステムのモデルを構想する。	第1技術 教室
家庭	日浦 2年D組	献立作りと食品の選択 「加工食品と私たちの生活」	持続可能な社会の構築の視点から加工食品の意義をとらえ、環境・経済・社会（文化）との繋がりを意識した意思決定をすることで、よりよい食生活について考える。	被服教室
英語	梶山 3年A組	Unit 6 Striving for a Better World	領域統合型の活動を軸に、アウンサンスーチーの生き方から学んだことを共有し、自身の考えや思いを英語のやりとりの中で深化させる。	3A 教室

10 講演会・パネルディスカッション (14:45-16:15)

講演 演題「授業の質の向上に資するカリキュラム・マネジメントとは」

中国学園大学・中国短期大学 副学長 住野 好久 先生

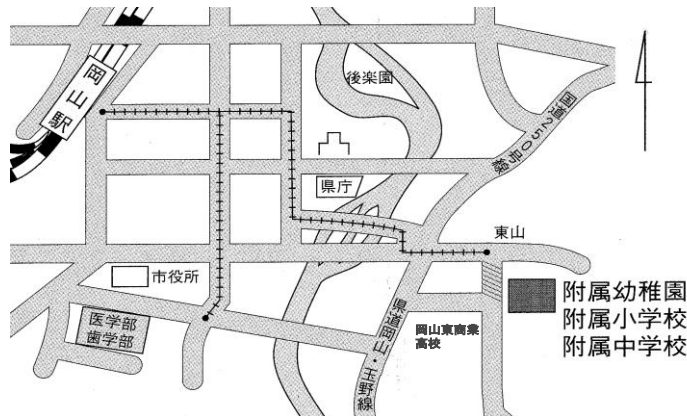
パネルディスカッション

テーマ「授業の質の向上に資するカリキュラム・マネジメントのために」

〈コーディネーター〉 川田 力（岡山大学教育学部附属中学校 校長）

11 交通案内, その他

岡山駅から路面電車「東山行」(約5分おきに発車)に乗車し, 終点「東山・おかでんミュージアム駅」で下車し, 南に徒歩5分です。(所要時間は約25分です)



〔自家用車の方〕
「東山電停」から南進または、「岡山東商業高校」の前から北進し, 校門より運動場へ

岡山大学教育学部附属中学校 第35回中学校教育研究発表会 「参加申込票」

学 校 名			
所属機関名			
連絡先	住所 〒	—	
	TEL (—	—
	FAX (—	—

	職 名	参 加 者 氏 名	参観授業・研究協議 (希望される教科, 昼食の要・不要に○をご記入ください)			
			公開授業①	公開授業②	研究協議会	昼食
1						要・不要
2						要・不要
3						要・不要
4						要・不要
5						要・不要

【通信欄】

- ※この用紙をコピーしてお使いください。
- ※公開授業・研究協議会の欄に参加希望「教科名」をご記入ください。
- ※技術・家庭科については, 「技術」及び「家庭」のいずれかをご記入ください。
- ※昼食については, 要・不要どちらかに○をご記入ください。
- ※メールで申し込みの際は, 件名に「第35回教育研究大会申し込み」とご記入ください。